

# 「被災地の子どもたちに音楽・芸能を届けよう！」プロジェクト2015

## 事業報告書



### 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会

#### ◇事業の趣旨

震災から5年余が経ちました。地域によっては、目に見えて街の再建が進んだところもありますが、まだ仮住まいや避難生活を続けている方々は17万人以上いらっしゃいます。復興住宅に移り住んだ方も将来への不安を抱えたまま、心の復興はむしろこれからという声が聞かれます。

当協議会では、東日本大震災直後から文化芸術を通じた震災復興プロジェクト事業を実施し、被災地の自治体等と協定を結ぶなどして地域との結びつきを強めてきました。その経験を踏まえ、2015年度は前年に引き続き東北3県の学校などを訪問し、子どもたちに音楽・芸能を届け交流する機会の提供を継続しました。とりわけ福島県では、子どもたち対象の多様な事業へのニーズがあり、行政提供の事業だけでは学校等の要望が全ては満たされていない実状があります。当協議会でも福島県内の学校での実施に力を入れてきました。

## ●スマイルプロジェクトによる室内楽の出前コンサート

日本音楽家ユニオン東北地方本部の演奏家たちが、2012年から始めた「スマイルプロジェクト」は、東北の小学校から希望を募り2～3名の演奏家が学校を訪問して室内楽の演奏を聞かせて交流するという事業です。東北在住の演奏家たちが、被災地の子供たちに音楽で元気になって欲しいという思いから企画して続いている事業で、芸団協は2012年から応援しています。2015年度は岩手県と福島県の6つの小学校を訪れました。

子どもたちが、演奏家の間近で生の室内楽演奏を聞き、プロの演奏家に直接質問したりできる体験は、残念ながら小学校で頻繁にあるものではありません。演奏家は、子どもたちに馴染みのある曲目からも選曲して演奏します。普段歌っていた歌が、ヴァイオリンやチェロ、クラリネットの音色で奏でられるのは新鮮な体験だったようです。吹奏楽をやっている子どもたちは、プロの演奏を真剣に聞いていたそうです。実際に学校を訪問している演奏家たちは、「意義のある演奏機会が得られること、子どもたちとのふれあいは、何にも代えがたいことだと思う」と言っています。



### いわき市立植田小学校（写真左）の先生より～

「無償でこのようなすばらしいコンサートを開いていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。植田小は校庭や体育館も修復され、子ども達も一見元気いっぱいです。しかし、中には、何度も引っ越しや転校を繰り返し、ようやく落ち着いた児童や津波で家を流された児童など様々な家庭環境にあります。先日の震度4の地震では、泣き出したり、津波を心配して不安がる児童もいました。今回のコンサートでは、楽しい曲に笑い、分解されていくクラリネットに興奮し、美しい曲にうっとりし、心から音楽を楽しむことができました。きっとこの時間は、子ども達の中に根付き花を咲かせてくれるものと思います。また機会があればお願いします。ぜひこのプロジェクトを続けて、他の被災地の子ども達へスマイルを届けてください。本当にお世話になりました。ありがとうございました。」

### 2015年度 実施校

2015年 10月26日	岩手県	陸前高田市立高田小学校
10月29日	福島県	いわき市立 植田小学校
10月29日	福島県	いわき市立 泉小学校
11月24日	岩手県	久慈市立宇田小学校
11月25日	岩手県	岩泉町立浅内小学校
2016年 3月7日	福島県	いわき市立大浦小学校

## ●宮古市での人形劇公演

芸団協では、岩手県宮古市と文化協定を結び（2012年11月）、以後、宮古市の依頼を受けて毎年冬に「みやこ寄席」を開催しています。市からの直接の委託事業のほかにも、子育て支援すくすくランドにて、人形劇公演や保育士さんをはじめ、子育て支援に関わる方たちを対象とした表現遊びワークショップなどの依頼を受けて、実演家を派遣しました。

すくすくランドの人形劇公演では、クリスマス会の流れの中でサンタからのプレゼントとして実施したこともあり、参加者が子ども109名 大人106名と大賑わいとなったそうです。翌日、宮古市内の別の地域の保育園でも公演を行い100名余の子どもたちと大人たちが人形劇を楽しみました。終演後には、人形を手にした実演家との交流会も行いました。



人形劇団だぶだぶ「魔女になりたがりやの小さなネズミ」「さるじぞう」公演  
(12月20日 於:すくすくランド、12月21日 於:常安寺保育園 )

## ●表現遊びワークショップと「だだすこだんだん」公演

岩手県宮古市は、北海道のやまびこ座、こぐま座などの関係者を中心に人形劇などの派遣支援が盛んにおこなわれた地域で、社会福祉協議会子育て支援の関係者がその受け入れをしてきました。人形劇をはじめ、舞台芸術を通して子どもたちの成長を促す活動の重要性や有効性に気づいた人たちが活動してきたモデル地域です。しかし、北海道の人形劇団の支援が一区切りを迎えるというので、その後の活動をどう展開するかが当面の課題となっています。

今回は、表現遊び指導者育成でも実績があり、岩手県出身の多田純也氏に、宮古市での子育て支援者向けのワークショップと保育園公演に行ってくださいました。

「指導者向け研修会は、これからも大いに必要とされるのではないかという実感です。震災から5年、「ケア者のケア」という言葉が言われるように、行政や福祉従事者にうつ病、さらには自殺などの現象がみられるそうです。福祉従事者自身が癒されケアされスキルアップでき元気になれる支援が求められます。私の講座は表現遊び講座でしたが、疲れた顔の参加者がみるみる本来の表情に戻っていったのが印象的でした。翌日の幼児親子向けでは、やはり、お母さんたちのケアという意味でも喜んでいただけました。震災という未曾有の体験の中、子育てをする、保育をする大人、その中で育つ子どもたちこれから寄り添う活動がまだ必要とされており、また、この5年間の支援体験を次の現場に生かす継承が求められていると思います。」(ただじゅん企画 多田純也)

今回の宮古行きの直前には、気仙沼のおひさま保育園での公演もお願いしました。おひさま保育園は、津波によって園舎と理事長が流されてしまい、一時廃園になった保育園ですが、保護者の要望に応え当初ボランティアで保育をはじめ、再建した保育園です。多田さんは、仮設で運営を始めた頃から、新園舎(建設会社の寄付)お披露目会、今回と3回目の訪問上演をしています。



2016年

2月26日 宮城県気仙沼市 おひさま保育園  
おはやし劇場だだすこだんだん公演

2月29日 岩手県宮古市  
社会福祉協議会子育て支援者講習会

30日 岩手県宮古市 子育て支援すくすくランド  
表現遊びワークショップ



## ●心と心をつなぐ「伝手品」公演

日本奇術協会のドルフィンさんが率いるドルフィンマジックカンパニーは、東日本大震災後、被災地各地でマジックショーを行ってきました。種や仕掛けが全く分からない鮮やかなマジックで子どもたちの目を見張らせるだけでなく、子どもたちとのやりとりの中で、「感謝の気持ちを忘れないで」というメッセージを送り続けています。2015年度も、芸団協の派遣で福島県内の6つの小学校で公演しました。

「震災から5年を迎え、今までに80か所以上を訪問し公演してきました。当初の頃に比べたら、道路や建物、作物は少しずつ元に戻ってきているようには思われます。でも実際にまだ大勢の方々が仮設住宅から出られない状況ですし、故郷に戻れず辛い思いをしている方々がいらっしゃいます。今は、それぞれの町の自治体の方たちが、小さい力を集め、何かしら町おこしにつなげられないかと試行錯誤しています。これまで復興支援公演でつなげてきた出会いを途切れさせるのではなく、何とかつなげていきたいと思っています。」(ドルフィンマジックカンパニー)



2015年	11月2日	福島県	郡山市立 東芳小学校
	11月3日	福島県	加沼郡三島町民センター(三島小学校児童対象)
	12月9日	福島県	田村市立要小学校
2016年	2月24日	福島県	郡山市立御代田小学校
	2月24日	福島県	郡山市立栃山神小学校
	2月25日	福島県	棚倉町立高野小学校

## ●女川町で落語会「なまって わらって 笑って！笑って！ コミュニケーション」

芸団協は、女川町と文化協定を結び（2012年7月）、以来、町内の仮設住宅をめぐるお茶っこ寄席や、町民のど自慢大会などに協力してきました。2015年度は、新しく完成した女川町まちなか交流館のホールで、六華亭遊花さん（落語芸術協会・東北支部）による落語会を開催しました。

遊花さんは宮城県在住で、東北弁の落語を得意としています。お茶っこ寄席で女川には何度も訪れています。今回の演目は「夫婦とうふ」という新作で、噺の途中で旦那の弟が亡くなるシーンもありましたが、その後強く生活するという展開に、みなさん涙を浮かべながらも、大きくうなずき笑っている姿が印象的でした。終了後町のみなさんから「とってもいい、素晴らしい時間をありがとうございました」と、また来て欲しいというリクエストと感謝の言葉が相次ぎました。



2016年3月4日 於：女川町 まちなか交流館ホール 六華亭遊花

芸団協では2011年度より〈震災復興に文化芸術を基金〉を設置し、寄付を募っています。これまでに多くの方々からご寄付をいただき、震災復興プロジェクトの活動に充当させて頂きました。2015年度には、下記の方々からご寄付を頂きました。改めて御礼申し上げます。（敬称省略）

株式会社 エス・シー・アライアンス  
一般社団法人日本舞台音響家協会

有限会社ドルフィンマジックカンパニー  
藤田 赤目、太田 歩（ほか匿名多数）

これまでの活動については、下記サイトをご覧ください。

<http://bunka-tsunagu.blogspot.jp/>

今後とも、皆様のご支援をお願いいたします。ご協力いただける方は下記口座へお振込みください。

〈震災復興に文化芸術を基金〉

みずほ銀行 支店名：新宿新都心支店（209） 普通 口座 1494755  
口座名義 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 震災復興に文化芸術を基金  
シャ）ニホンゲイノウジツエンカダンタイキョウギカ  
シンサイフッコウニブンカゲイジュツオキキン



【お問合せ】 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 [芸団協]

163-1466 東京都新宿区西新宿 3-20-2 11階

tel:03-5353-6600 fax:03-5353-6614

E-mail: support@geidankyo.or.jp

URL: <http://www.geidankyo.or.jp/>